

熊一坂

和書門			
二	二	二	二
一	一	六	四
二	二	六	七
冊	架	函	號

內閣文庫		
九	二	二
九	一	四
一	一	七
一	二	二
架	冊	號

內閣文庫	
番號	和 24729
冊數	212 (181)
函號	199 216



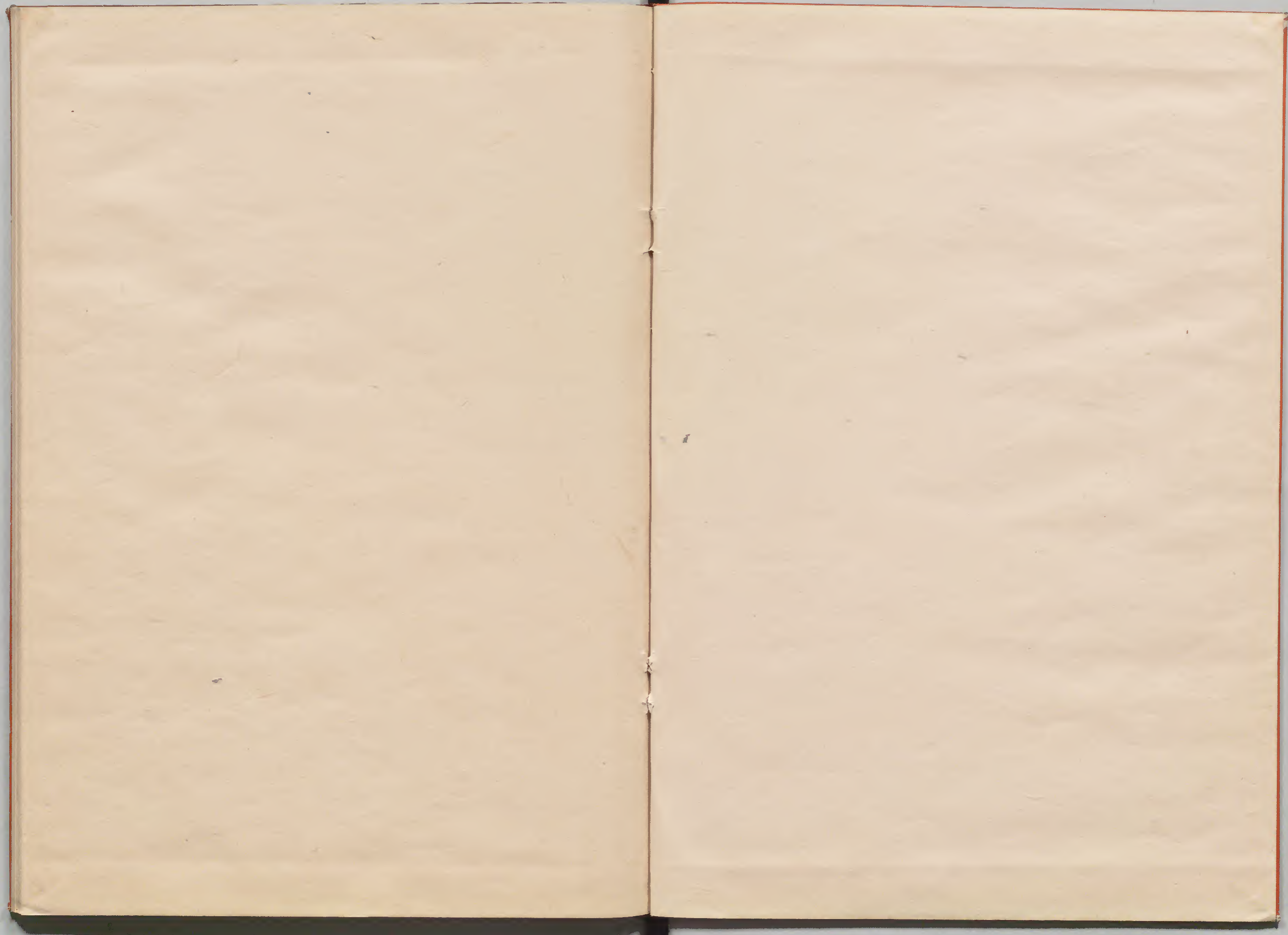
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

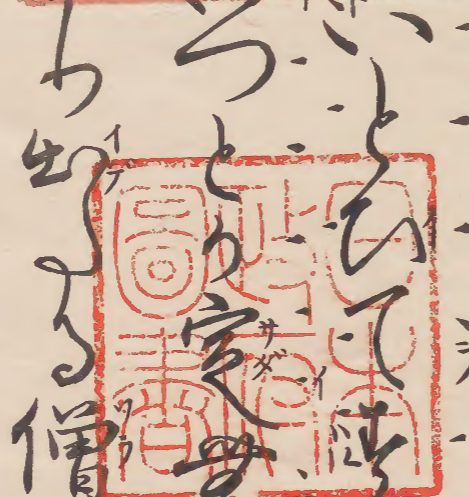
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



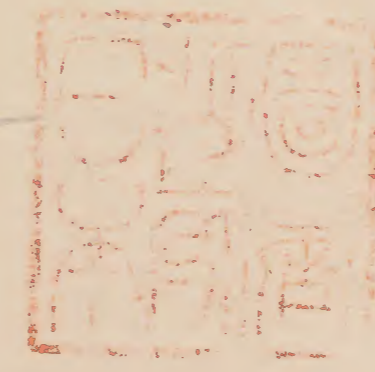




尺骨

シラ

浅草文庫



東國と見れば福も今思ふ東國
 修行と志作らば切山へて近江路
 あれや湖の粟津乃森も
 見し日たる勢田の長橋打るて

藤原非
 藤原非
 藤原非
 是ハ都

野路の原原をこめて朝たつ
道乃家深き音船とぐ原八名のこ
志て色づく秋ハ赤坂乃里も霧
行日影のれくあつくあま
ある清僧よべきまのの^{コト}此方の
事よそゆり行りそそ^{コト}あま
らる者乃命日よきく作吊ひて

終り久^{タニハ}ちれ^{コト}う^{コト}出家の^{シユツケ}守^シあれ
らちあぐ^{コト}誰と志て^{コト}包向^{カウ}へ^{コト}ま
たとひ^{コト}其^{コト}名^{コト}ハ^{コト}ハ^{コト}も^{コト}あ^{コト}ま^{コト}し^{コト}よ
見^{コト}したる^{コト}一本^{コト}の^{コト}松^{コト}乃^{コト}す^{コト}こ^{コト}此^{コト}方^{コト}の
茅^{カマ}原^{ハラ}こ^{コト}う^{コト}と^{コト}今^{コト}ハ^{コト}古^{コト}墳^{コト}あ^{コト}れ^{コト}世^{コト}
復^{フク}あ^{コト}る^{コト}祢^{コト}バ^{コト}ハ^{コト}あ^{コト}り^{コト}あ^{コト}る^{コト}行^{コト}とも
あ^{コト}や^{コト}誰^{コト}と^{コト}名^{コト}と^{コト}志^{コト}る^{コト}で^{コト}包^{コト}向^{コト}と^{コト}い^{コト}り

あらん^{ニテ}し^テ一^ニ吏^シそも^ク若^クからん^ド
法^{ホウ}界^{カイ}所^{シヨ}生^{シヤウ}平^{ヘイ}等^{トウ}利^リ益^{イキ}生^{シヤウ}記^キ
輪^{リン}回^{クワイ}を^{シテ}あ^レよ^シもの^ト法^{ホウ}吊^{トウ}を^{シテ}
身^ミよ^クう^キを^シ切^キた^トび^テう^ノの^ハ名^ナ
名^ナの^ハ名^ナも^シ受^{ウケ}悦^{エツ}を^シう^レう^シ
女^メ又^{マタ}有^{アリ}難^{ガタ}や^コと^シ向^{カウ}ハ^ニ草^{サウ}木^{モク}固^{コト}出^{シュツ}
も^スら^ラド^ニも^シの^ハと^シま^シて^シう^シる^シに^シ

よ^シと^シ心^{シン}あ^レて^シあ^レく^シも^シら^レて^シう^シ思^シ向^{カウ}
あ^レま^シう^シり^シま^シぬ^シが^シや^シあ^レる^シを^シま^シ
ら^レる^シバ^シこ^シあ^レる^シは^シ入^ニの^ハ愚^グ僧^{ソウ}が^シ菴^{アン}
室^{シツ}一^{イチ}夜^ヤを^シあ^レり^シて^シ法^{ホウ}道^{トウ}を^シ入^ニ
わ^レぐ^シて^シま^シら^レう^シむ^シる^シよ^シそ^シの^ハ女^メが^シ下^カに^シ
一^{イチ}ま^シ事^{コト}乃^ニの^ハ持^チ佛^{ブツ}堂^{ドウ}に^シ糸^{イト}り^シ
し^トと^シめ^シて^シう^シむ^シる^シよ^シな^シの^ハ女^メに^シ

兵置一鈴の繪像本像もあく
一碎出よハ大長カ杖杖よあらる
鉄乃杖その兵具とあつと
置きていハ竹とPたる清く
ていづいらむ此僧ハ末初
乃者よそのいから清く
何しちハ雲井あを暮赤坂

兵置一鈴の繪像本像もあく
一碎出よハ大長カ杖杖よあらる
鉄乃杖その兵具とあつと
置きていハ竹とPたる清く
ていづいらむ此僧ハ末初
乃者よそのいから清く
何しちハ雲井あを暮赤坂
其里ぐハ多きれハ昔物ハ原
草たりくあを暮こやま乃本
花まバ盜賊志ハかくまも
荷とねと一里内ハ下女
たの者までもうちをま
位らきよ其時長カ
愛とバ我よまら

かくまを突ハ一度ハらもあま
時もあつた極乃時と此所の便
ももある者ぞと悦あへを
べーと思つららの心あぢんぼ
儀アサまき世と松者乃所ぢん
旨オセ證セウあつた平ヘイかカくク似ニあアぬヌ僧ソウ乃ノウ
腕ウデだてらラうウとト思オモはハらラめメ

らちあがら佛も浮泡乃アもんや
蒙ア染ゼンハ方便ベン乃ノウらラりリ矢ヤとトもモ
多タ門モンとト辨ベンとト横ヨコたタぬヌてテ悪アク魔マとト
カカガガくク一イチ笑ウツ義ギとトもモひヒ終シュウへヘアア
ハハらラまマババ愛アイ著ジュ慈ジ悲ヒ心シンとト同ドウ乃ノウらラもモあアまマ
五ゴ逆ギャク子シまマぎギくクまマ方ホウ便ベン乃ノウ殺セツ生シヤウハハ善ゼン
六ロク度ドはハ悔クワイさサまマちチとトちチとトちチとト

かきとす地のせむきぬ身乃
行へ速おもらとるもあろろや
られむ心乃師とハあま心を師と
をばきと古き言葉よあわれ
かやろろおごりらむ夜も明
あましは休あまや清僧我もま
ごろまんらとむと眠花よ入よと

見しつるがうちも失て菴室も
茶村とありて松蔭よ長と月
なる不思神らよく様ま
ひま娘ぶべき草だもも枯
わらわたる秋の形も凡おもごとく
色立てて此を鑑誦するく
東南よ凡立て西水よ雲志づの

あづぶ暗き長く夜をきりま
山陰ハハ上地ノ入ア
榎木の間やらわぐん
在明流り所一かよ月ハ出ても
臆夜あるべ一切入責ふと前後
と下知し一ら平やめてよ心とく
あつて人乃寶を奪来一悪道
坐坐乃執心是淨院せよあら

まや 熊坂の長靴よそわち
いふ其時の有様清おごり作へ
らても三條乃昔次倍高とて金
とあふまの高人あつて毎年何
まゝ乃寶を集めて高行を作て
奥へあふあつりれ是と云はると
此長靴とてとめと志て穴丸見の

千チがらう志シれものモノらラ七十シチ人ジンハ
興ヨカリしてシテ昔キ次ジがト通トるホ道ミチらチら
野ノもハ山ヤマふハ色シロ宿ヤク泊トクもハ物モノ見ミをス
付ツてケ見ミをスとシ見ミをスはシ赤アカ坂サカ乃ニ宿ヤクよ
つくツク愛アイしシうウ空クウ丸マル見ミ乃ニとトうウあアまマをス
ひヒきキむムもモ四シ方ハツ乃ニ道ミチ多オホしシ見ミまマバ
膏ヨヒよりヨリ酒シユ宴エンをスあアしシ杯ハイ盃ザイ狼ラウ藉ゼキ

時トキをスらラすス夜ヨもモ更ハ行ケババ昔キ次ジ
兄ケイ弟テイ前ゼン後ゴもモ志シらラぶブかカたタか
志シよヨ十ジュウ六ロク七シチ乃ニ小コ男ヲコ乃ニ目メのノうウち
人ヒトはハ勝カチまマたタるルがガ障サヤ子シ乃ニ透ス回ケ和ワ
合アイ乃ニうウよヨもモもモ心ココロよヨかカけケて
山ヤマもモ山ヤマふハ色シロ宿ヤク泊トクもモ牛ウシ若ワカ
殿ドとト八ハチ萬マン乃ニ志シらラぶブ運ウンのノつツき

ぬる盗人等もきかぬと云ふも久し
まや入と云ふも久し
きれく皆我先よと東首を
投こみく乱入物ハ夜夜神も
面と向べきやううあきぬれを
牛着ハおも怒るもきかぬと云ふ
ち力を接て度ア合所子奮迅

虎乱入飛鳥乃かきちの平とく
だま責戦へむこへむとてよ
そ比十三人同ド柵子切物を
これ甚お千原ちカと松具足
と棄ハまきまきく小布て命
むらりとのつるもあつ然坂云や
は者どもとあう下よ打とく様

鬼クニ種クニくシ人シ回ルりシてハもアりトマ
盗スルもニ命イのチ有リてシうク何レもアらズヤ
一ト人シをシてハ長キ杖ツ子ツ突キりシろ
やシもシるキるガ能ク坂サ思オひク様ヤ
日ニ物モノこシ一ト具ツくハ志シやガ切キとヤ
云フもシらズあリるシ人シ能ク坂サ細シ術ジュとト
ゆキよクあリるシ天テ魔マ鬼キ

種クニあリもシ中ナよクつリてハ微シ塵チよク
女メ討ツれタるシ者モノたノ道ミチ供ツ養ヤ小コ
幸コトぞシんシ道ミチよクあリてハ一ト
何レ乃ナ長キ刀タいキきウどメ打ツ書シ戸ドとヤ
こシてハよク知ツてハ彼カ小コ男ヲとシ行キらズいハ
もシらズ牛ウ若カハシ後ノどメ方カらシ一ト
かクざシ物モノあリてハ隔ヘくシ侍シ給メあリ

熊坂も長刀のまへ互にの家を侍
もるがらうて熊坂らうくはか
つるもきも通まこと実長刀と
たれしと打てら平へせは道
ひきまららびに正長刀よひらと
のまばむきよあし志らひて
らばめてへはと道直しと

あうと切ハ中よそ結とほご
平よむて拂へぞおわらつて具
まらえとむかちちも失ては愛や
かしこと尋るる奴も思ひもらぬ
はより具足の透回とちやうと切
こむらよびくはぢやよ切あまの
腰立らよとへて天命の運乃

極う念ある 打物わぶよ
かあまきく 平子せん
長刀投捨大平をひるぎて 夏の
馬道かころつまじり道無杖
つめとんとまねども 蜻蛉稲妻
水乃月もや海ハ見えども 平よ
しきす 次第くよ 童よと

貞女くばら心ちかきも 弱
よりけり 此松ぐねの 若乃
露露とゆい 昔乃物語 罪と
たまきそたび 終くとゆい つま
身もあふ夜もきく と赤坂
乃松陰よかくまききり 松かげよ
うハ隠まきれ

